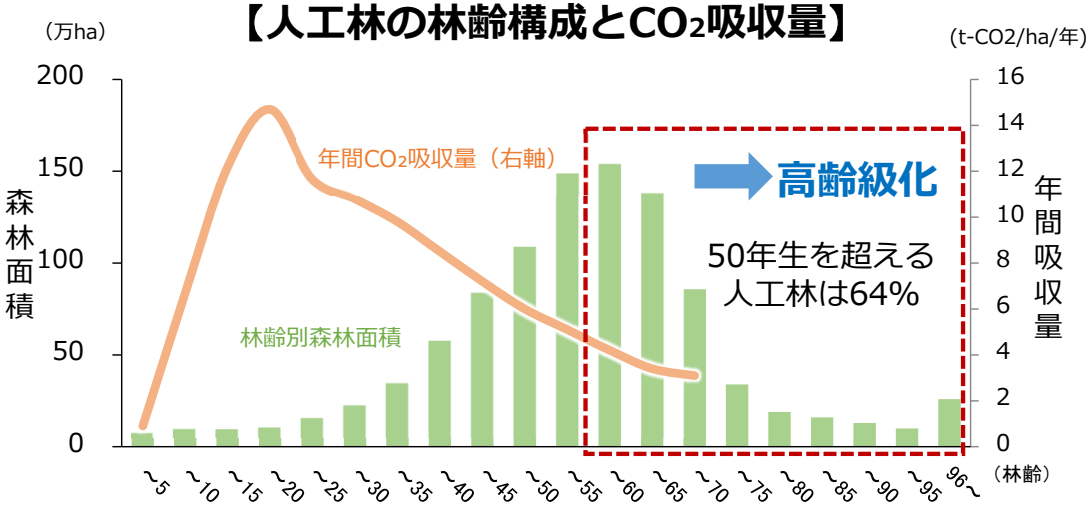
森林吸収量

・森林は大気中の二酸化炭素を吸収・固定し、温室効果ガスの吸収源として地球温暖化の防止に貢献しています。
・森林から生産された木材を建築物等に利用することで、炭素の長期的な貯蔵や建築時のCO_2の排出削減に貢献します。
・さらに、樹皮やのこ屑をエネルギー源として利用することで化石燃料を代替することになります。

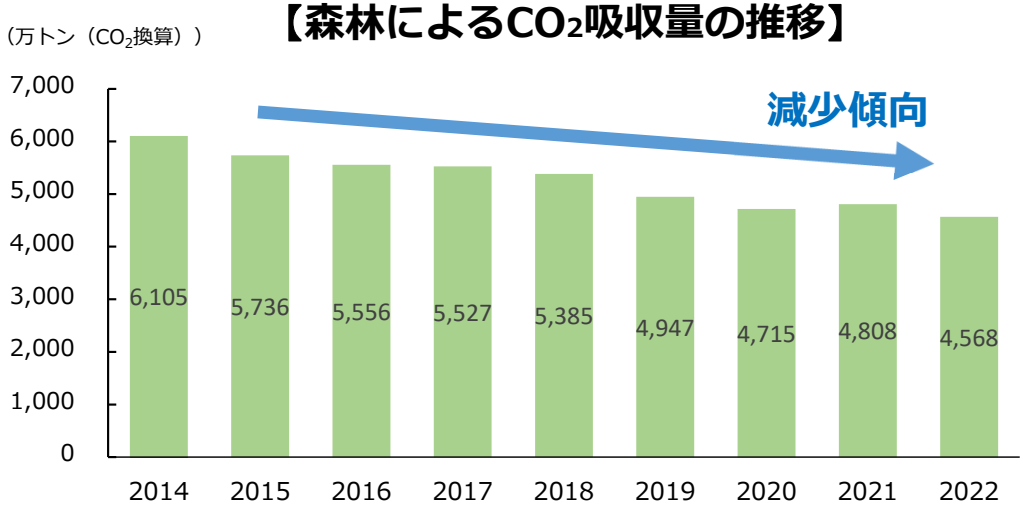
人工林と森林吸収量の現状　人工林の高齢級化により、森林のCO_2吸収量は減少傾向

【人工林の林齢構成とCO_2吸収量】



※林野庁「森林資源の現況」（R4.3.31）
J-クレジット制度運営委員会・第2回森林小委員会資料を加工

【森林によるCO_2吸収量の推移】



※日本国温室効果ガスインベントリ報告書（R6.4）

政府が目指す2050年のカーボンニュートラル（温室効果ガスの排出を日本全体でゼロにする）達成のためには、CO_2排出量を削減するとともに、**<u>CO_2の吸収量を確保することも重要</u>**です。

＜森林が貢献できること＞

- 伐採した後で確実に植林することで、**<u>成長の旺盛な若い森林を造成</u>**
- 伐採した木材は建築材として**<u>大気中の炭素を長期間貯蔵</u>**

▶▶▶ **CO_2吸収量の確保**

- **<u>CO_2排出が多い資材や、化石燃料の代わり</u>**に木材を利用

▶▶▶ **CO_2排出量の削減**